～もっと地域と　もっと地域へ～

# かがやくえがお

第23号

令和8年　9月30日
長崎市立小島小学校
校　長　　桐山　充晴

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成



あっという間に9月も今日で終わりとなり、明日からは10月です。

朝夕は涼しくなり、過ごしやすい季節となりました。学習にも運動にも身が入る「実りの秋」を迎え、子供たちは日々元気に学校生活を送っています。

秋は気候が安定する一方で、先日の線状降水帯発生など自然災害への気配りや備えが欠かせないと感じることが多くなりました。また、インフルエンザの流行の兆しも見られるため、注意が必要です。御家庭におかれましても、引き続き防災意識を高めていただくとともに、手洗い・うがいなどの感染症対策に御協力をお願いいたします。

さて、学校の中心は「学習」を通して「学力」を身に付けることです。





しかし、教科等の学習以外にも集団生活や学校行事を通して、たくさんの力を身に付けながら成長していきます。その一つに、先日6年生の修学旅行が実施されました。

## 帰ってきました　６年生



先々週になりますが、一泊二日の修学旅行（阿蘇方面）から無事に帰ってきました。

出発前に、有意義な修学旅行にするために次の3つのお願いをしました。

①プラスの言葉を使う　②心を動かす　③少しの我慢をする　ということです。

詳しい内容は書きませんが、旅行中この3つを頑張る6年生の姿が多く見られました。

様々な活動を通して、教師から教わり、友との生活から学び、出会った人や自然から学ぶことがたくさんありました。その結果、多くのことを手に入れ、それぞれに成長を感じられる二日間でした。

解散式では、振り返りというほどではありませんが、「楽しい」「うれしい」だけでなく、「あーしまった」「なるほど、そうやっていいんだ」「「こうした方がいいんじゃないかな」など、多くの気付きや学びを今後の生活の中で意識して行くことが大切だと伝えました。

また、成長も課題もそれぞれに違っていると思います。一人一人が考えることが大切になってきます。思い出はしっかりと胸の中に、学んだことや身に付けたことは、やらなければ意味がないことを伝えました。

これだけ思い出と学びが多い修学旅行になったのは、多くの方の協力と、みんなのことを心配し応援してくれた家族のお陰であることに感謝するようにも話しました。

これからの成長が楽しみになった二日間でした。ちなみに6年生は、息つく暇もなく「小体会」に向けて日々奮闘中です。

## 秋を感じる…「中秋の名月」



旧暦の８月１５日の夜に出る月は「中秋の名月（ちゅうしゅうのめいげつ）」と呼ばれ、古来、この日にはお月見が行われてきました。

現在の暦では年ごとに日付が異なり、今年は「９月２５日」で、この日は満月かと思いきや、2日遅れて２７日が満月でした。わずかな欠けはありますが、ほぼ満月の月を見ることができました。

月は１年を通して空にあり、満ち欠けを繰り返していますが、秋のこの時期は空気が澄んでいて、ひときわきれいに見えるともいわれます。身体だけでなく、目と心で「秋」を感じてみるのもよさそうですね。

ところで、夜空に浮かぶ月は、太陽のように自ら光を発するのではなく、太陽からの光を受け止め、それを反射させることで穏やかで優しい光を放っています。

子育てや教育において、「自分の力で立ち、道を切り開くこと（太陽のような自立）」を促すことはとても大切です。しかし、「すべて自分の力でやらなければならない」と思い詰めすぎると、子供自身がプレッシャーを感じたり、周りに対して不寛容になってしまうことがあります。

子供は、家族や学校、地域など、多くの温かい「おかげ（支え）」を受けて成長していきます。日常の接し方として、以下の**3つのポイント**を意識してみてはいかがでしょうか。

---

**１　「一人で完璧にできなくても大丈夫」と伝える**

「全部自分でやりなさい」と追い詰めるのではなく、「周りの助けを借りてもいいんだよ」と教えてあげることが大切です。周りに支えられていることを知ることで、子供は肩の力を抜き、心穏やかに自分らしく輝くことができます。

**２　日常の中にある「おかげさま」に気付かせる**

見えないところで自分を支えてくれている人や社会の存在（＝「おかげ」の光）に気付く問い掛けをしてみましょう。「たくさんの人に支えられて今があるね」と感じる体験が、感謝の心と穏やかな自信を育みます。

**３　受け取った優しさを誰かに届ける「やさしさの連鎖」をつくる**

周りから温かく照らされた子供は、その受け取った優しさを、今度は友達や周りの人へ「月明かり」のように優しく返すことができるようになります。自分が誰かの支えになれる喜びを知ることで、思いやりのある行動へとつながっていきます。

---

完璧な「太陽」を目指す必要はありません。子供たちがたくさんの温かい光（おかげ）を感じ取り、柔らかく周りを照らせる「月」のように育っていけるよう、大人も温かく寄り添い、支えていきましょう。




爽やかな秋風が心地よく、何をするにも過ごしやすい季節となってきました。気力・体力ともに充実するこの秋は、子供たちが新しいことに挑戦し、学びを深めるのに最も適した時期です。

これからの教育では、「ものを覚える力」以上に、「主体的に取り組む力」「知識を使いこなす力」「自分で考える力」を育てることが重視されています。これらの力は一朝一夕に身に付くものではなく、日常の中での「豊かな体験」の積み重ねによって育まれるものです。

過ごしやすいこの季節に、自然体験や文化活動など、五感を満たす多様な経験をさせていきたいと考えております。いつもとは違う環境で、子供同士で切磋琢磨したり、様々な大人から知識や知恵を学んだりする体験は、人間関係を広げ、心を豊かに育ててくれます。

さて、１０月の全校講話では、子供たちに「続けることの大切さ」について話をいたします。「続ける」要は「積み重ね」です。「成功する人」と「成功しない人」の違いは、この「続ける」か「続けないか」で分かれるような気がします。

どんなに素晴らしい体験や学びも、一度きりで終わってしまっては、本当の自分の力にはなりません。「もっと知りたい」「もっと上手になりたい」という気持ちをもち、小さなことでもコツコツと継続する姿勢があってはじめて、自分の頭で考え、実践する力へと定着していきます。

御家庭におかれましても、お子様が秋の深まりとともに何か一つでも「続けて取り組む姿」を見せましたら、ぜひ温かく励まし、その努力を認めてあげてください。

実りの秋にふさわしく、豊かな体験と「継続する心」を通して、将来の自立に向けた確かな基礎を、御家庭と連携しながら一つ一つ積み上げていきたいと考えております。